電球が恋をして

電球が恋をして

登場人物

あかりちゃん
まめじまくん

あかりちゃん　まめじまくんは、首から上が裸電球だ。
まめじまくん　だから小学校の頃はよくいじめられた。そんな時に助けてくれたのが、
同じクラスのあかりちゃんだった。
あかりちゃん「これがまめじまくんの個性なの！」
まめじまくん　と、いじめっ子に言い放ったり、
あかりちゃん「やさしく光るところが素敵だよ」
まめじまくん　と、なぐさめてくれたりした。
あかりちゃん　そんなわけで小学生のまめじまくんは
まめじまくん　彼女をそっと好きになった。初恋だった。
あかりちゃん　まめじまくんの電球はふだん光らないけれど、
まめじまくん　あかりちゃんと話すと明るくなった。恋のせいだ。恥ずかしくて苦しくて、
ビガーと光った。
あかりちゃん　でも、好きだとは伝えられなくて、
まめじまくん　そのままあかりちゃんとは別の中学校に行くことになった。

あかりちゃん　それからは
まめじまくん　同じ市内に住んでいるというのに、毎日の電車やバスでも、
まめじまくん　休日のデパートでも、
あかりちゃん　お正月の大きなお寺でも、まめじまくんは、
まめじまくん　あかりちゃんに偶然会うことはなかった。
あかりちゃん　小学校の卒業で会えなくなってから、まめじまくんは
まめじまくん　中学、高校の文芸部でいくつもの短い小説を書いた。なんとなく、
小説を書くことを仕事にしたいと、夢見るようになる。
あかりちゃん　物語のヒロインや登場人物のモデルは、
まめじまくん　いつだってあかりちゃんだった。ずっとあかりちゃんのことが
好きだったのである。彼女を思うと
あかりちゃん　まめじまくんの電球は、やはり光る。
まめじまくん　だから小説を書いている時は、部屋に明かりをともす必要はなかった。

あかりちゃん　それから月日がさらに経った。
まめじまくん　その年の市内のトピックスは動物園に8年振りとなる
あかりちゃん　新しいホッキョクグマが2頭やって来たことだった。
まめじまくん　そんな年始めの成人式のことだ。
あかりちゃん　まめじまくんは買ったばかりのスーツを着て、
まめじまくん　成人式に出席した。
あかりちゃん　終了後のホールのロビーで
まめじまくん　聞き覚えのある声が、
あかりちゃん　彼の名前を後ろから呼んだ。
まめじまくん　振り返ると、そこにいたのはあかりちゃんだった。
あかりちゃん「まめじまくん！久し振り。変わらないなー。元気してた？」
まめじまくん「うん、元気にやってるよ。今は東京の大学に行ってる。あかりちゃんは？」
あかりちゃん「あたしはね、バイパス沿いの大きな電気屋さんで働いてる。そういえばさ、
高校1年生の時かなあ、まめじまくんを駅前で見かけたよ」
まめじまくん「そうなの？なんで話しかけてくれなかったのさ」
あかりちゃん「なんか照れくさくてね。実はあたし、小学生の時、まめじまくんのこと
好きだったから、ドキドキしちゃって」
まめじまくん　ただでさえ着物姿のあかりちゃんは、とてもきれいで緊張するというのに、
そんな告白をされたので
あかりちゃん　彼の電球はこれ以上ないくらい強く光をはなった。
まめじまくん　あかりちゃんが思わず
あかりちゃん「まぶしいよ」
まめじまくん　と、笑った瞬間だった。
あかりちゃん　バチン！
まめじまくん　と、音を立てて、電球の中の細い線が切れてしまう。
あかりちゃん　まめじまくんの光る電気が消えた。そうしたら彼は
まめじまくん　あかりちゃんのことを何とも思わなくなった。
あかりちゃん　様子が変わったまめじまくんに「大丈夫？」
まめじまくん　と、声をかけて心配してくれるあかりちゃんをうざったいとすら思った。
なんだか元気も出ないし、立ち話も途切れたから、その場を離れようとした。
あかりちゃん「ちょっと待って！」
まめじまくん　あかりちゃんが
あかりちゃん　まめじまくんの腕をつかんだ。
まめじまくん　そして必死な顔で
あかりちゃん「うちの店で、電球交換できると思うから、いっしょに来て」

まめじまくん　と、言った。
あかりちゃん　まめじまくんは嫌がった。
まめじまくん　でもあかりちゃんは無理やり
あかりちゃん　彼を引っ張って、ホール前に行列したタクシーに押し込んだ。
まめじまくん　運転手さんに行き先を告げると、あかりちゃんは
あかりちゃん「大丈夫だから、きっと直るから」
まめじまくん　と、はげました。
あかりちゃん　電球が切れたまめじまくんとしては、
まめじまくん　なぜ彼女がそこまでしてくれるのか、理由がわからなかった。でも、
心に何かがじんわりと染みるような感覚を味わっていたのはたしかだ。
あかりちゃん　電気屋に着くと
まめじまくん　あかりちゃんが店長に掛け合って、さっそく電球を替えてもらう。
あかりちゃん「これなら電線が切れる心配もないね」
まめじまくん　あかりちゃんがそう言って、
あかりちゃん　まめじまくんの頬に手を当てると彼は明るく輝いた。
まめじまくん　照れたのだ。
あかりちゃん　でも、もうショートする恐れはない。裸電球から
まめじまくん　ＬＥＤ電球に交換して貰ったのである。
あかりちゃん　まめじまくんは
まめじまくん　恋心を取り戻し、思い切ってあかりちゃんを
あかりちゃん　デートに誘った。
まめじまくん「御礼にさ、今度ご飯おごらせてくれない？それが嫌だったら……、ううん、
できれば動物園にホッキョクグマ観に行こうよ」
あかりちゃん「うん、動物園も食事にも連れてって」
まめじまくん　と、言ってあかりちゃんは笑った。

（了）

原作　なかがわよしの
戯曲化　黒岩力也